

## 平成26年度 第3回広報・広聴委員会会議報告

**日時** 平成26年11月14日(金)12時～13時30分  
**場所** 九州大学21世紀交流館  
**出席者** 相京副委員長、櫛原、伊藤、深井委員、  
高木(事務局)  
**オブザーバー**：柳沢氏(次期事務局：福井県文書館)  
(欠席) 新藤委員長、五島委員

### ○報告・協議

#### (1) 報告

##### 1 会報96号について

- ・9月30日付けで発行。納品は9月30日、発送作業を10月1日に行った。

##### 2 会誌の販売状況について

- ・予算額111,000円に対し、10月末現在、79冊を販売、101,538円の売り上げがあった。

#### (2) 協議

##### 1 会報97号の進捗状況

- ・次号は福岡大会の特集号とする。
- ・締め切りは12月末日とし、報告者、参加記執筆者には、一部を除いて今大会の会場で執筆依頼文を手渡し済み。
- ・編集後記の執筆は伊藤委員とする。

##### 2 会誌『記録と史料』第26号の進捗状況

###### ○特集「アーカイブズの情報発信」

- ・8月までに内諾済みだったIT系の4本に加え、山口県と藤沢市の事例を加え、計6本となった。
- ・藤沢市の「ジュニア版ふみくら」は、配布した資料では櫛原委員が執筆すると記したが、直接の担当者は中村修氏である。中村氏はアーカイブズネットワークに書いていただくことになっているので、その調整が必要である。
- ・序文の執筆は、事務局・高木が担当する。

###### ○論考

- ・投稿済の原稿が1本ある。この査読の担当委員を決めた。
- ・昨年度の国立公文書館の長期研修の終了論文からの転載を依頼していたが、執筆から1年経っていてデータが古くなったうえ、公務繁多で書き直す余裕がないことから、掲載を断られた。代わってもう1本の候補だった方に改めて掲載をお願いすることになった。

- 特別寄稿
  - ・日本経済新聞社の松岡資明氏に「特別寄稿」として、アーカイブズを取り巻く最新動向などについて書いていただくよう依頼した。
- アーキビストの眼
  - ・今回は掲載を見送る。
- 世界の窓
  - ・メリーランド大学プランゲ文庫について、巽氏に執筆していただくことになった。
- アーカイブズネットワーク
  - ・太宰府市、三重県、相模原市、市民アーカイブズ多摩、常陸大宮市のそれぞれ開館の記事と、鳥取県の資料修復事業の6本とし、いずれも依頼済みである。
- 書評と紹介
  - ・『近世の村落と地域史料保存』、『アーカイブズの構造認識と編成記述』、『歴史文化を大災害から守る』の3本は執筆者が確定。『アーカイブ・ボランティア』、『仙台市博物館の資料レスキュー活動』は、執筆者の推薦待ちである。他に『国家と秘密 隠される公文書』が載せられるか検討すること。
- 資料ふぁいる
  - ・今のところ候補がなく、今回は見送りの可能性が高い。
- 会員刊行物情報
  - ・会報送付時に全会員に情報提供を依頼済み。11月9日現在、48機関、94冊の情報提供があった。
  - ・今年度から導入したエクセルのフォーマットが功を奏し、例年より編集作業が楽になった。
  - ・11月末の締め切りの時点で未提出の機関会員に対しては、メールで再依頼を出すことで、誌面の充実をはかる。
- 編集後記
  - ・深井委員が執筆する。

### (3) 次期委員会への引継ぎについて

#### 1 著作権のあり方とWEB掲載について

- ・前回の委員会で、刊行物記事のWEB掲載については、①著作権をすべて譲渡してもらう方法、②公衆送信権や複製権の行使のみを著者から承諾してもらう方法を比較検討することが確認された。そこで、全史料協理事の早川和宏氏に相談した結果、②を推奨するというアドバイスもらった。執筆者自身がコピーをとったり、リポジトリに転載したりすることが自由にできなくなるのは、執筆者にとって不都合になることが主な理由である。また、投稿論文が中心の他学会の機関誌とは異なり、全史料協刊行物の原稿の多くは会からの依頼にもとづいて執筆していただくものであり、実務上、著作権譲渡をお願いしにくいという事情もある。そのため、当委員会としては②を採用することに決定した。
- ・2月の役員会で上記の旨を報告した上で、それ以降に発行したものに限り、WEB掲載をする。会誌25号・会報97号については、ほとんどの原稿について執筆依頼

済みだが、校正時、または完成時に、承諾を依頼する。

- ・会誌については、販売との兼ね合いもあるため、WEB 公開する時期は発行してから1年後とする。

## **2 次期委員会への引継ぎ**

- ・刊行物の在庫を事務局が変わるたびに引き継ぐのは効率的ではない。また調査・研究委員会からも、12種類、561冊の在庫が別にあるとの連絡があった。倉庫を借りることや、事務委託の中に在庫保管を仕様として入れることなど、検討する必要が確認された。
- ・事務委託は、行うかどうかも含めて、会長事務局と、新旧の広報広聴委員会事務局とがよく相談しながら決めていくことにする。
- ・会誌の表紙のデザイン変更も、次期委員会への申し送り事項として入れてほしい。